

山形県フォレスター連絡会議を開催しました

令和4年2月24日(木)、オンラインで関係各所をつないで、山形県フォレスター連絡会議を山形県森林研究研修センターとともに開催しました。

連絡会議は、山形県の森林研究研修センター、村山、庄内、置賜、最上各総合支庁、農林大学校と、山形県内の山形、庄内、置賜、最上各森林管理署とが参加して毎年開催しています。

当日は、それぞれから、森林総合監理士による普及活動や、研修プログラム、民有林・国有林が連携しての検討会等の実施状況等を報告したほか、市町村森林整備計画の作成支援や、レーザー測量への取組状況についての情報を共有しました。

また、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所の酒井敦森林技術研究グループ長から「主伐期を迎えたスギ林、植えよか止めよか...伐採前に考える」と題する講演をいただき、スギの特性を踏まえた再生林の適否についての考え方に関する知見を学びました。民有林・国有林双方の関係者が同時に講演をいただく中で、それぞれの視点からの質疑などもあって、意義あるものとなりました。

昨今の「ウッドショック」による木材価格の上昇は、山で働く方の賃金水準を引き上げ、伐って植える循環を真に根付かせることができるかを問うものでもあり、林業の低コスト化、木材の協調出荷や、今後の安定的な木材供給に必要な林道と接続する公道の機能強化など、以前にも増して、民有林と国有林の緊密な連携が多岐にわたって求められています。当署では、引き続き、連携を強化しながら、林業の成長産業化や「やまがた森林ノミクス」の推進に努めていく考えです。

